

第2章 障がいのある人の現状

1 統計データからみた現状

(1) 人口の構造

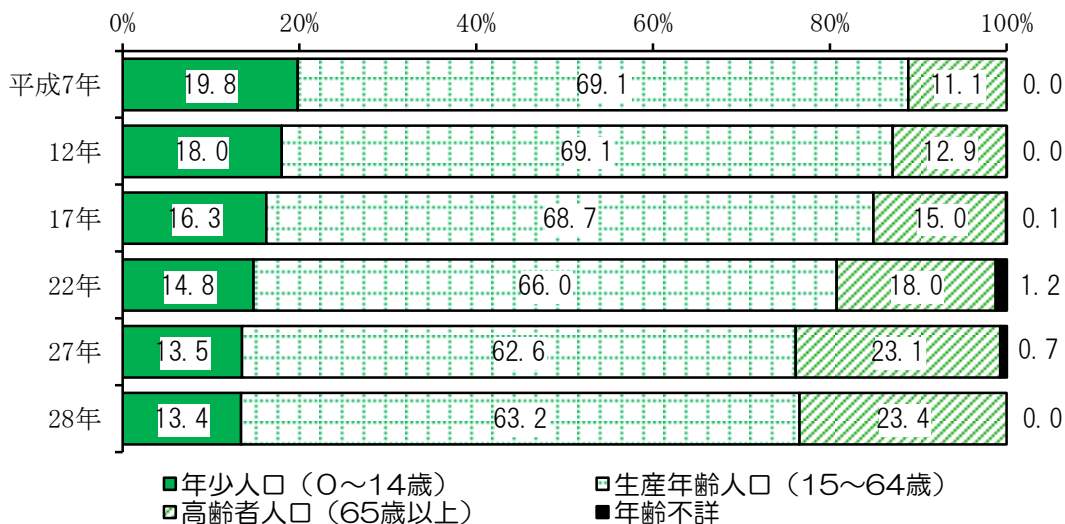
中央市の人口の推移

		平成7年	12年	17年	22年	27年	28年
総人口	(人)	28,543	30,769	31,650	31,322	29,698	30,766
年少人口 (0～14歳)	(人)	5,654	5,531	5,144	4,640	4,005	4,123
	(%)	19.8	18.0	16.3	14.8	13.5	13.4
生産年齢人口 (15～64歳)	(人)	19,714	21,274	21,741	20,658	18,602	19,436
	(%)	69.1	69.1	68.7	66.0	62.6	63.2
高齢者人口 (65歳以上)	(人)	3,175	3,959	4,743	5,638	6,874	7,207
	(%)	11.1	12.9	15.0	18.0	23.1	23.4
年齢不詳	(人)	0	5	22	386	217	0
	(%)	0.0	0.0	0.1	1.2	0.7	0.0
伸び率 (%)	(%)	—	7.8	2.9	-1.0	-5.2	3.6

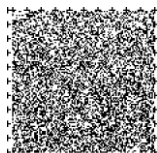
資料：平成27年度まで「国勢調査」（各年10月1日現在）、平成28年度「住民基本台帳」

平成28年度の総人口は、30,766人となっています。平成17年度までは微増傾向にありますが、それ以降は前年度を下回る傾向が続いています。

年齢3区分別人口比率の推移

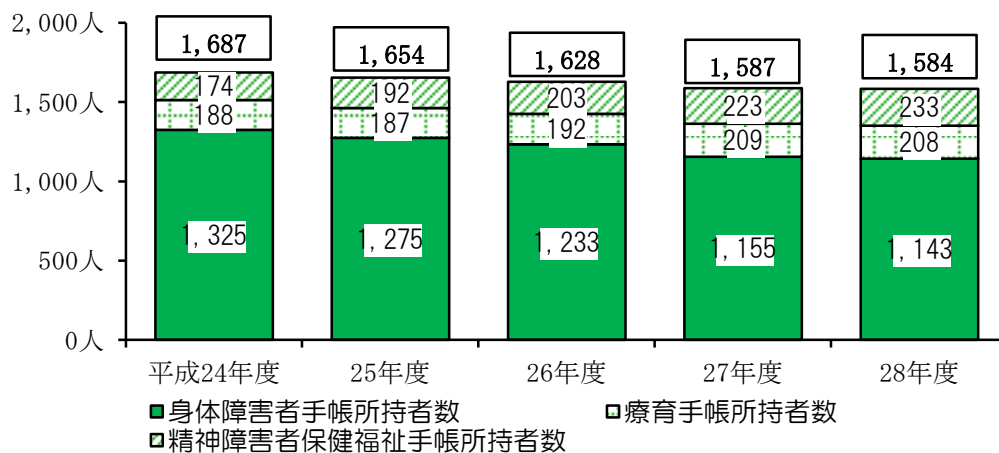


平成28年度の年齢別人口比率は、「年少人口」が13.4%、「生産年齢人口」が63.2%、「高齢者人口」が23.4%となっています。平成7年度より「年少人口」が減少傾向、「高齢者人口」は増加傾向にあり、「高齢者人口」の増加が目立ちます。



(2) 障がいのある人の状況

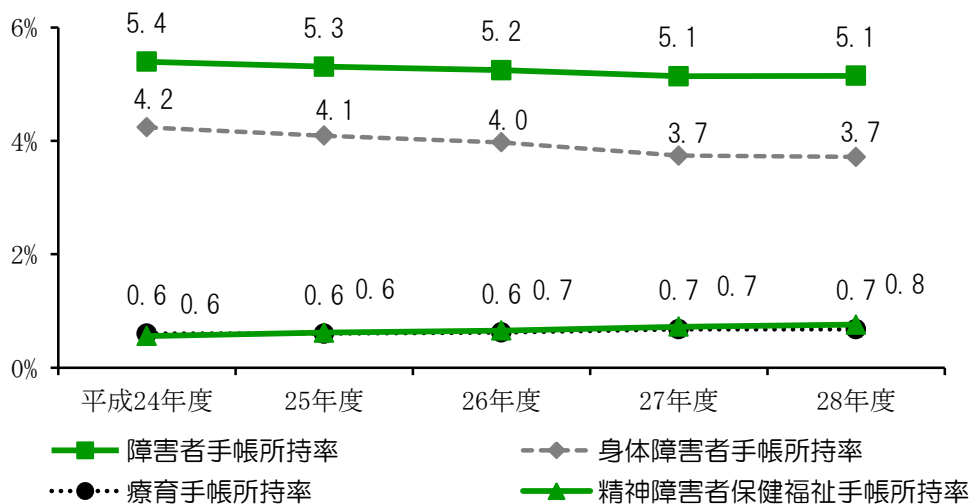
手帳の種類別手帳所持者数の推移



資料：福祉課（各年3月31日現在）

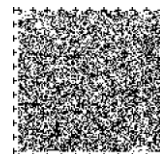
平成28年度の手帳所持者数は、1,584人となっています。内訳は、「身体障害者手帳所持者」が1,143人、「療育手帳所持者」が208人、「精神障害者保健福祉手帳所持者」が233人となっています。平成24年度以降、手帳所持者数は減少傾向にありますが、平成27年度以降は1,580人前後で推移しています。

手帳の種類別手帳所持率（総人口比）の推移



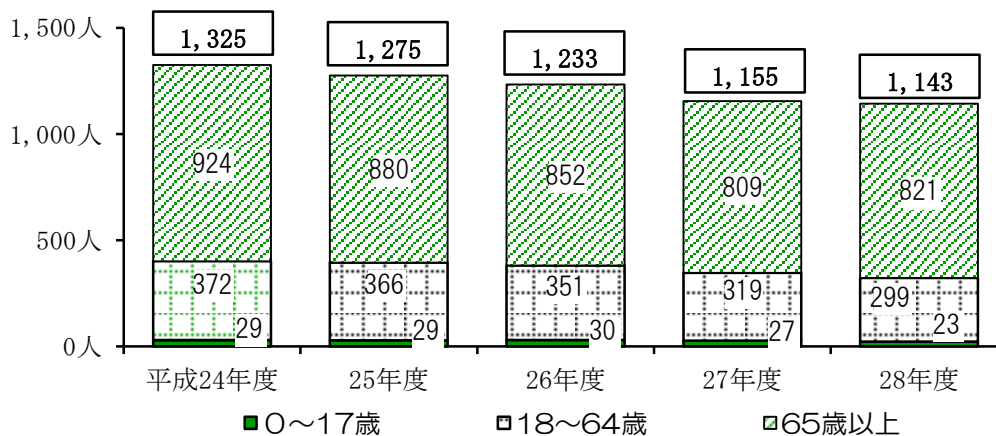
資料：福祉課（各年3月31日現在）

手帳所持率、総人口比の推移は、どの種別においてもおおむね横ばいの傾向となっています。



(3) 身体障がい者の状況

年齢別身体障害者手帳所持者数の推移



資料：福祉課（各年度末現在）

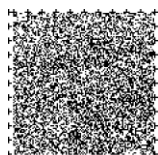
平成 28 年度の身体障害者手帳の所持者数は、1,143 人となっています。年齢別では、「0～17 歳」が 23 人、「18～64 歳」が 299 人、「65 歳以上」が 821 人となっています。「0～17 歳」「18～64 歳」は減少傾向にあります。平成 24 年度以降「65 歳以上」は減少傾向にありますが、平成 27 年度以降は微増傾向にあります。

障がいの種類別・等級別身体障害者手帳所持者数

	視覚障がい	聴覚平衡 機能障がい	音声言語 そしゃく 機能障がい	肢体不自由	内部障がい	合計
1 級 (人)	18	3	1	127	207	356
2 級 (人)	15	34	1	137	4	191
3 級 (人)	4	8	14	111	44	181
4 級 (人)	3	13	4	140	123	283
5 級 (人)	9	0	0	56	0	65
6 級 (人)	5	30	0	32	0	67
合計 (人)	54	88	20	603	378	1,143

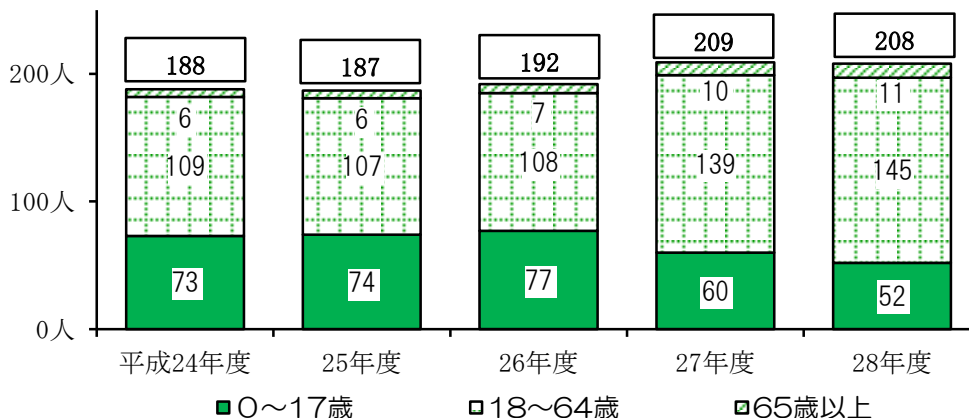
資料：福祉課（平成 29 年 3 月 31 日現在）

平成 28 年度の身体障害者手帳所持者の障がいの種類は、「肢体不自由」が 603 人と、約半数を占めて多くなっています。等級別でみると、1 級において「内部障がい」、2～6 級においては「肢体不自由」が最も多くなっています。



(4) 知的障がい者の状況

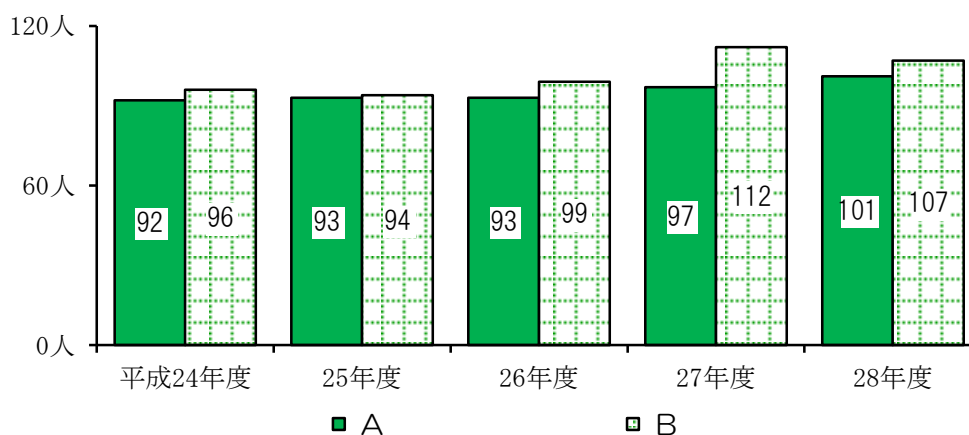
年齢別療育手帳所持者数の推移



資料：福祉課（各年度末現在）

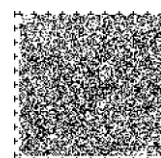
平成 28 年度の療育手帳所持者数は、208 人となっています。年齢別でみると、「0～17 歳」が 52 人、「18～64 歳」が 145 人、「65 歳以上」が 11 人となっており、「18 歳以上」が約 7 割を占めています。平成 26 年度以降、「0～17 歳」は減少傾向にあります。が、「18～64 歳」「65 歳以上」は増加傾向にあります。

等級別療育手帳所持者数の推移



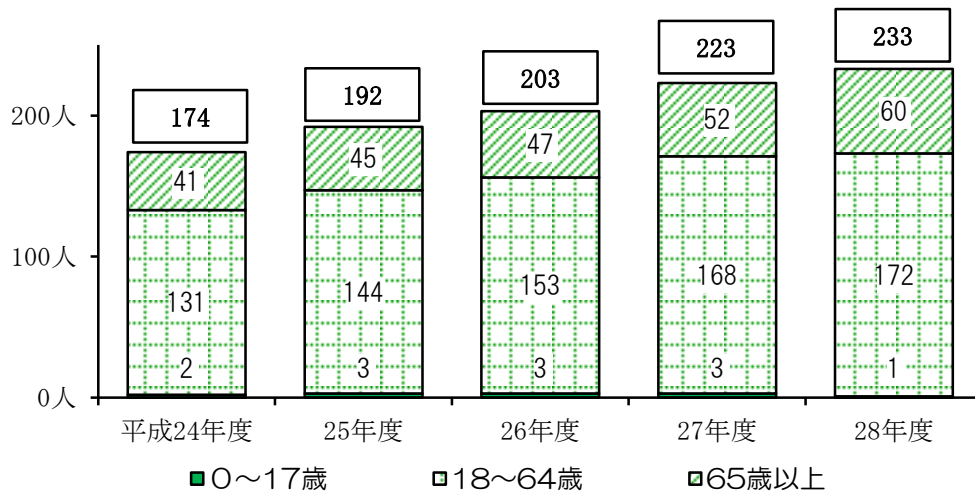
資料：福祉課（各年度末現在）

平成 28 年度の等級別療育手帳所持者数は、「A」が 101 人、「B」が 107 人となっています。平成 24 年度以降、「B」は約 100 人前後で推移していますが、平成 27 年度では 112 人を超えて多くなっており、平成 28 年度では再び減少しています。



(5) 精神障がい者の状況

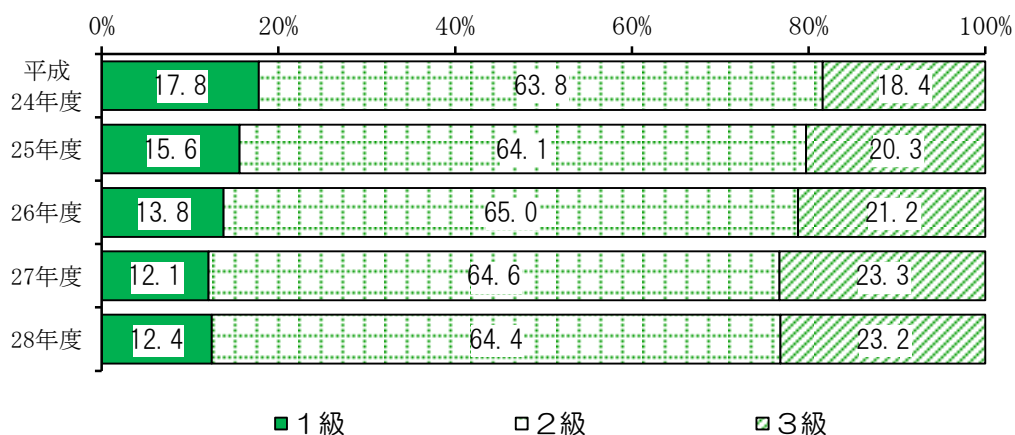
年齢別精神障害者保健福祉手帳所持者数の推移



資料：福祉課（各年度末現在）

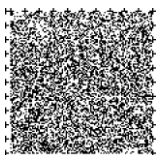
平成 28 年度の精神障害者手帳所持者数は、233 人となっています。年齢別では、「0～17 歳」が 1 人、「18～64 歳」が 172 人、「65 歳以上」が 60 人となっています。平成 24 年度以降、「18～64 歳」が増加傾向にあり、全体の約 7 割を占めています。

等級別精神障害者保健福祉手帳所持者割合の推移



資料：福祉課（各年度末現在）

平成 28 年度の精神障害者保健福祉手帳所持者の割合は、「1 級」が 12.4%、「2 級」が 64.4%、「3 級」が 23.2%となっており、「2 級」が全体の約 6 割を占めています。平成 24 年度以降、「1 級」がやや減少傾向にあります。



(6) 就園・就学の状況

公立保育園における障がい児の在籍状況

	平成24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
在籍児数（人）	787	805	782	772	760
在籍障がい児数（人）	21	23	13	10	12
在籍率（％）	2.7	2.9	1.7	1.3	1.6
加配保育士数（人）	13	12	7	6	6

資料：市内の公立保育園より（各年度4月1日現在）

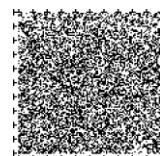
障がい児学級の状況の推移（小学校）

	平成24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
設置校数（校）	6	6	6	6	6
学級数（級）	12	9	11	10	13
生徒数（人）	27	23	25	26	35

資料：教育委員会（各年5月1日現在）

平成28年度の公立保育園における障がい児数は、12人となっています。平成24年度以降は約20人強で推移していましたが、平成26年度以降は約10人強で推移しています。

平成28年度の小学校における障がい児学級設置校数は6校、学級数は13級、生徒数は35人となっています。平成24年度以降、生徒数は約25人前後で推移していましたが、平成28年度では35人と増加傾向にあります。



障がい児学級の状況の推移（中学校）

	平成24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
設置校数（校）	2	2	2	2	2
学級数（級）	4	4	4	4	4
生徒数（人）	16	11	11	14	13

資料：教育委員会（各年5月1日現在）

通級指導教室の状況の推移（小学校）

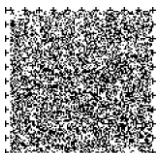
	平成24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
設置校数（校）	1	1	1	1	1
児童数（人）	16	17	20	21	23

資料：教育委員会（各年5月1日現在）

平成28年度の中学校における障がい児学級設置校数は2校、学級数は4級、生徒数は13人となっています。平成24年度以降、設置校数、学級数ともに同じ数ですが、生徒数は11人～16人の間で増減しています。

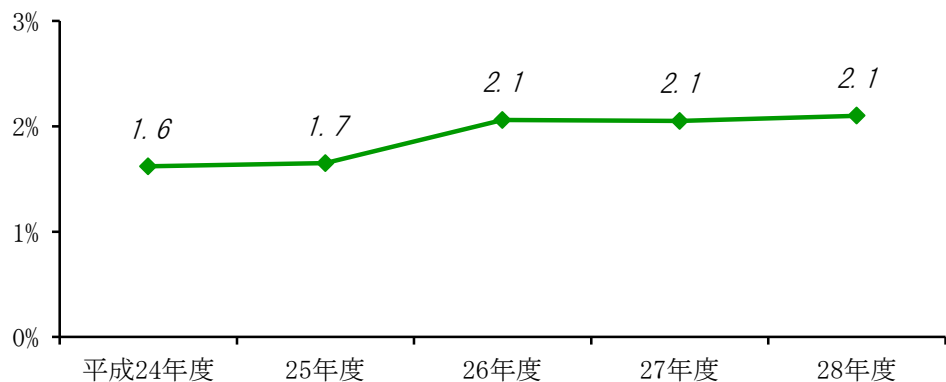
平成28年度の通級指導教室の設置校数は、1校、児童数は23人となっており、平成24年度以降、年々増加しています。

*就園・就学の状況としては、この他に児童発達支援を利用されている就学前の児童、私立幼稚園・こども園に通園している児童、県立の特別支援学校に通学している生徒等がいます。



(7) 就労の状況

中央市職員の障がい者雇用率の推移



資料：総務課（各年 10 月 1 日現在）

平成 28 年度の中央市の職員の障がい者雇用率は、2.1%となっています。平成 26 年度以降は、横ばいで推移しています。

